

入札監理小委員会

第 75 回議事録

内閣府官民競争入札等監理委員会事務局

第 75 回入札監理小委員会

日 時：平成 21 年 1 月 23 日（金）18:33 ～19:30
場 所：永田町合同庁舎 1 階 第 1 共用会議室

議事次第

1. 実施要項（案）の審議

- 経済産業研究所ホームページ中国語サイトのコンテンツ翻訳・更新業務
（（独）経済産業研究所）

2. その他

<出席者>

（委員）

樫谷主査、渡邊副主査

（（独）経済産業研究所）

総務グループ 河津総務ディレクター、山田総務副ディレクター、五十嵐総務副ディレクター、長谷川総括担当マネージャー

研究グループ 谷本ウェブ・編集マネージャー

（事務局）

佐久間事務局長、関参事官、森山参事官、徳山企画官

○樫谷主査 それでは、ただいまから、第75回「入札監理小委員会」を開催したいと思います。

本日は、独立行政法人経済産業研究所の経済産業研究所ホームページ中国語サイトのコンテンツ翻訳・更新業務の実施要項（案）についての審議を行いたいと思います。

本日は、独立行政法人経済産業研究所総務グループの河津総務ディレクターに御出席いただいておりますので、業務の概要や実施要項（案）などの内容につきまして、15分くらいで御説明をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○河津ディレクター 恐縮でございます。河津と申します。お忙しいところをありがとうございます。

それでは、御説明をさせていただきます。お手元の資料A-2でございます。こちらを御説明させていただきます。

私どもの法人でございますけれども、経済産業省から8年ほど前に独立したものでございまして、この資料で申し上げますと、2の（1）のところになります。一言で言いますと、経済学を中心とする社会科学系の研究をして、それを経済産業政策に反映させる。そういう学術的にもしっかりした基盤を持った政策をやっつけようということで、それまで省内にございました研究所を独立させてきたものでございます。

その業務の一つといたしまして、その研究成果を活用するというので、設立以来、広報というものに力を入れてきてございます。具体的にはホームページを持っておりまして、それを設立当初から日本語、英語、中国語の3つでやってきております。

ここには書いてございませんけれども、私どもの研究所でやりました成果はシンポジウムのようなものもございますが、基本的にはディスカッションペーパーと呼んでおりますが、論文を発表しておりまして、これも設立当初からすべてホームページ上で公開をするということにしてきております。

それを基本的には日本語、英語を中心に中国にも発信をしようということでやってきておるわけですが、実は中国語のホームページは日本語、英語に比べますと、その抜粋のような形になっておりまして、すべてを翻訳しているわけではございません。この中国語のホームページでございますけれども、これをこの仕組みにのっとりまして、外部の方をお願いをしようということでございます。

（3）でございます。この対象となるコンテンツの翻訳・更新業務の詳細な内容というところがございますが、ポイントを申し上げますと、翻訳をする。原稿は基本的には日本語、物によっては英語から日本語にしたものをまた中国語というのがありますが、日本語のものをすべてではなく、部分的に選択をして、これを翻訳をする。それを中国語のホームページのサイトにアップをするという技術的な部分がございます。

もう一つのポイントは、ニュースレターを私どもは出してございまして、このニュースレターの作成というものにつきましても、今回お願いをしたいと考えております。

少し細くなりますが、1ページの下のところでございますけれども、業務のマニュアルをつかって、きちんと徹底をしていただく。それから、編集会議というのをやってございまして、それに月

1 回出てきてほしいということで、そこは有形、無形の私どもの考え方を共有してもらいたいということでございます。

具体的な業務といたしましては、2 ページでございます。まず翻訳でございます。翻訳につきましては、ここに表が付いてございますが、一番右に「種別」というのがございまして、A と B と振ってございます。A とありますものについては、これは当該項目「大項目」と左側に書いてございますが、これは全文を中国語に翻訳をしていただきたいということでございます。

項目で言いますと研究テーマからディスカッション、論文と書いてありますが、論文の概要部分でございまして、全文ではございません。それから、出発物の紹介。イベントについての翻訳が必要なコンテンツは次の欄にございますけれども、このイベントの議事録でございます。

その下に寄稿・企画というのがございまして、4 つ並んでございます。中国語で何と読むかわかりませんが「实事求是」。私どもの研究員の中に関さんという中国の方がおられまして、その方が日本語で実は書いておられますが、それを中国語に直していただく。

「コラム」と言っておりますが、これは論文というよりもエッセイといいますか、もっと短い、やわらかいと言うとちょっと違うんですけども、余り論文の形式でないようなもの。雑誌等への寄稿。「時事專訪」と書いてありますが、インタビュー記事といったものがございまして、これを翻訳してもらいたいということでございます。

種別の B となっておりますイベントの議事録、下の 2 つ、雑誌等の寄稿あるいはインタビュー記事のところについては、日本語ではいろんなものが出るんですが、必ずしもすべてが中国の方に関心があるというわけでもなからうということで、現在でも選択的に翻訳をしております。

したがいまして、この部分については今回の仕組みでも選択的にやっていただくということにしております。これについては、私どもの方で 10 個あるうちの 3 つをやってくださいという形をお願いをすることになります。

②の業務でございます。そうやって翻訳をしたものを、これを技術的にということになりますが、ホームページにアップする形にして、それを実際にホームページにアップする。見られる形にするという作業がございます。

この作業につきましては、大変恐縮なんですけども、業者の方に私どものところに来ていただいて、オフィスから操作をしていただくということにしております。セキュリティ上の都合がございまして、それをお願いしたいと思っております。実は今は R I E T I の外からはアクセスできないことにございまして、仮に外にお願いをするとすると、言わば窓をつくらなければいけなくなる。そうすると窓の管理をしなければいけなくなると、いろいろと面倒なことが起こるものですから、大変恐縮でございますが、来ていただくことにしております。

イのところですが、細かい話ですけども、これを更新しましたとか、新しいものを載せましたという更新情報というのがまたございますものですから、その中国語の部分にその更新情報を載せていただくという業務がございます。

3 ページになります。そうやって載せていただくわけでございますが、いろいろと次々に載せていたり、少しグループ分け変えたりということをしたときに、リンクが切れるということがござ

います。ここにリンクがありますよとクリックをしても、出てこないときがときどきおありになるかと思いますが、そういうようなことをチェックをしていただく。あるいは事後的に誤字・脱字に気が付くということもございますので、そういうのは直していただくというのをお願いします。

④が先ほど申しました、2つ目のポイントのニュースレターでございます。電子情報と呼んでおりますが、月に1回出しております、これの作成をお願いしたいと思っております。

その下のところに「中国語ニュースレターの構成」がございます。大体日本語で3,600字くらい。内訳はイントロ、特集記事。例えば日本では今こういうのが話題になっていて、それに関連するようなこういう論文が出ていますというようなことを書いていただいて、その後ろに関連する論文のリンク先はここですよというような形をつくっております。

特集記事のところは、下の3つ目の黒ポツのところでございます。中国当局の経済学者や一般国民にとって関心の高いもの、話題性のあると見込まれるコンテンツということで、今、私どもは選んでおりまして、ここの選ぶところも含めて、業者の方をお願いをしようというのが今回の私どもの考えでございます。

その際に私どもの方からは、アクセスログを提供して、それを参考にさせていただきながら、勿論その業者の方の知見というのもあろうと思っておりますので、選んでいただければと思います。この配信も大変恐縮なんですけど、先ほどのセキュリティー上の関係で、これは技術的な問題というよりも名簿をお渡しをするということをしたくないということでございます。名簿をお渡しすると、そのセキュリティーといいますか、その管理をしていただかなければいけない。その管理状況を私どもはまた監査をしなければいけないということが起こりますものですから、私どもの研究所の方から配信をするという今の仕組みを維持したいと思っております。

仮にそれをお願いしたとしても、私どもの一旦構築しているシステムの経費が減るわけではないものですから、経費的にも私どもの負担が減るということでは必ずしもありませんので、これは続けてやりたいと思っております。

そうやって配信した後、ウでございますけれども、これも中国語サイトの方に載せるというのをお願いしようと思っております。

(4)がいわゆるサービスの質でございます。大きく言えば2つございます。その翻訳にかける時間の問題といわゆるクオリティー、翻訳の質の問題がございます。1つは、期間でございまして、字数ごとにそれに所定する日数を設定してございます。2,000字以内であれば8営業日、1週間+木曜日まで。木曜日に更新をしていただくことになっております。

それが4,000字までであれば、2週間+木曜日まで。4,000字以上の場合は1か月。これは1か月以内のどこかの木曜日ということでございますが、そういうふうに考えております。これは今、実は翻訳は外部の業者をお願いをしております、今、申し上げた1週間、2週間というのが今でも業者をお願いをしているタイミングでございますので、そう無理な要求ではないと私どもは思っております。

次は、質のチェックでございます。ある意味ここが一番難しいところでございますが、私どもの職員として中国語のできる者もおりますので、その者がチェックをするということを考えておりま

す。

ここには必ずしも書いてございませんが、後で業者選定の際に専門家を交えた委員会等が出てまいります。私どもの研究所の研究活動の中で、先ほど申し上げました関さんという方は日本語で書かれるんですけども、勿論、中国語もお話しになられる方で、それ以外にも中国語のわかる先生方が何人かおられます。そういったような形に、例えば定訳があるのかとか、そういうようなことも伺いをしながら、私どもとしてはミスというものを判断をして、御連絡をしていきたいと思っております。

ただ、最後にございますが、なお指摘内容について異議のある場合、当研究者と協議をすることができるとございますが、必ずしもその翻訳が定訳が決まっているような用語ばかりではございません。経済学でも何でもそうですが、新しい概念が出てきたり、新しい分析書が出てきたりしますと、そういうものについては必ずしも中国語の定訳は決まっていないというものもございます。

そういうものにつきましては、我々としてはこういうふうに翻訳をしてほしいということをお願いして、何回かやっているんですけども、なかなかそのようにきちんと訳してくれないということになれば、それはミスということで、きつく申し上げるようなこともあるかと思っておりますけれども、基本的にはそういう訳し方について意思疎通をしながら、やっていきたいと思っております。

契約の形態及び支払いでございます。請負ということにしたいと思っております。つまり必要時間云々で生産をするという形ではなくやりたいと思っております。2年間でございますので、24分の1ずつを毎月支払う。

3番目でございます。今、申し上げましたように、ミスをチェックするというところでございますけれども、業者の方がミスをしたとしても R I E T I がチェックしてくれるからいいということでは困るものですから、誤訳が2か所以上、誤字・脱字が5か所以上、これが3か月以上続くような場合には減額をしますよということで、そうならないように注意をしていただきたいと思います。思っております。

今までの翻訳を外部に委託している経験から申しますと、最初のうちはいいんですけども、言葉は悪いんですが、だんだん雑になってくるというようなこともございますので、そういうことがないようにということで、この仕組みそのものは今までの契約にはないやり方でございますので、こういうやり方ではどうだろうと考えている次第でございます。3番目、実施期間は2年間でございます。

4番目の入札資格等に関する事項。ここは定型的な部分かと思っております。

5のところでございます。スケジュールでございますが、御了解いただければということでございますけれども、3月中旬ごろに入札公告にかけ、最終的に5月中旬ごろまでに契約という形に持っていければと思っております。

(2)でございます。手続でございますが、業者の方から出していただくものは当然、金額がございませぬ。

イのところでございますが、企画書ということで、後で中身の御説明をさせていただきます。ウは定型的なもの。エでございますが、翻訳の質といいますか、ミスといいますか、そういうものを見させていただくために、私どもの方が課題をお渡しをさせていただいて、それをサンプルとして

翻訳をしていただく。これを私どもの方で見ることを考えております。

企画書の内容が②でございますが、中身は1つは組織的な基盤。要するに会社の状況ということでございます。

イが、その経理に関することでございます。ウが、私どもの業務を実施するに当たっての実施体制。どういう配置、構成でやっていただけるかというようなこと。最後にございますけれども、当然、翻訳は外に頼んで、またそこから投げるといってもあろうと思っておりますので、そういう場合にはその範囲でありますとか、理由でありますとか、そういうようなこと。それから、事業計画。もう一つ、ニューズレターのご案内。これもある意味サンプルでございますが、これを出していただく。過去の実績をいただくということを考えております。

6番が決定に関する事項でございますけれども、総合評価方式。今いただいた企画書、サンプルの翻訳を含めて、外部の専門家。先ほど申し上げました私どもの研究に関わっている経済学の先生方で、中国語をきちんと理解できる方にも入っていただきまして、評価委員会で評価をすることを予定してございます。これは実はこれまでの翻訳の業者選定でも、これに類似したやり方をとっております。それを踏襲したいと思っております。

評価方法でございますけれども、①が絶対的な項目でございます。経理的基盤、実施体制、事業計画。②ということで、加点事項でございますけれども、1つ目が中国語翻訳の質。これはまず十分な人数なり、経済学に明るいであろうと思われるような経歴の翻訳者をきちんとそろえているかどうか。チェック体制、手順というものをきちんとつくっていただけるのか。翻訳者が翻訳したものをそのまま持ってくるということでは質が確保できませんので、そういう体制。

3番目が、実際にサンプル翻訳がどうなのかということでございます。ここのところを先ほど申し上げました外部の方にも見ていただいて、採点をしていただくということにしようと思っております。それから、ニューズレターのご案内、サンプルの内容。過去の実績。

これらを加えて(2)でございますけれども、予定価格の範囲内で、かつ基礎点及び加算点の合計点を入札価格で除して得られた値が一番大きいものを選ぶという形で、総合評価方式をしたいと思っております。

7番は別紙のとおりでございます。

8番で、実際に業者が決まってやっていただく場合に、1か月ごとに実施状況報告書というのをいただこうと思っております。これは実際にどのコンテンツをだれが翻訳をしたのかということをおっしゃる事後的に見させていただいて、お約束どおりといたしますか、出していただいたとおりの方々がやっておられるのかどうかということを見させていただきたいと思っております。

その後は、恐らくは定型的文章であろうと思っております。

9ページの真ん中「⑧業務従事者等の変更」。翻訳でございますので、やはり実際の翻訳がだれによってなされているのかというのは、勿論、翻訳の場合は次々といろいろな人を見つけてきたり、あるいは都合でできなくなったりするのが当然あろうと思っておりますので、言葉はかたいんですけども、事前に私どもに御連絡をいただいて、この方なら大丈夫でしょうという手続はとっていただきたいと思っております。

あとは恐らく定型的内容だと申し上げていいと思います。

○樫谷主査 いかがでしょうか。何か御意見、御質問がございましたら。

○渡邊副主査 先ほどの誤訳とか誤字・脱字の話なんですけれども、今までは外注されたものを研究所の方でどういうふうにレビューされておられたのか。それと比較して、今度は請負の形で出した場合に、そのチェック体制がどう変わるのかというのを教えていただきたいんです。

○河津ディレクター 私どもの職員として、非常勤の方でネイティブの中国語の方がおられまして、むしろチェックだけではなくて、いろんなこともやっておられますけど、その方がまず見るというのが基本でございます。

先ほど申し上げましたように、同じ方ばかり言うのも恐縮ですが、関先生は中国語もおわかりになりますので、業者が書いてきて、うちがチェックをする。それから、関さんが自分の原稿の中国語訳を見て、これは違うぞというような御指摘をいただくような形で、これは違うんですかというお話をして、これは定訳があるので明らかに違うので済みませんということもあれば、先ほど申し上げましたけれども、必ずしも定訳がないと。どちらでもいいんですけども、執筆者の関さんの場合は、自分はこちらがいいとか、あるいはそうでない方の場合は、先ほどのネイティブの中国語の人の感覚などを踏まえて、私どもとしてはこちらの翻訳にR I E T Iの場合はしてくださいというお願いをします。基本的には今回この仕組みでやっても、そのやり方というものを維持したいと思っております。

ですから、うちが一方向的に何かを言うとか、あるいはうちの職員だけの判断ということではなくて、関さんの場合は御本人ですけれども、そうでない方が翻訳の場合で、うちが見ておかしいと思った場合には、先ほども申し上げたような、ほかの先生方の御意見も伺って、これが定訳ではないかとか、あるいは定訳がないんだろうけれども、うちとしてはこちらにそろえてほしいというようなお話をさせていただくことになろうかと思っております。

○渡邊副主査 例えば翻訳などをする場合は、趣旨がよくわからないで、どちらにしようかと迷って、最後はグッドジャッジメントで選ぶものと、明らかに誤訳とわかるものとあると思うんですね。

前者の場合ですと、まさに書いた人とコミュニケーションをとったり、そういうプロセスで是正せざるを得ないと思うんですけれども、その点は今と請負で今後変わったとしても変わらないということなんでしょうか。

そういう人とコミュニケーションをとりながら、翻訳の正確性を保つ。そこから漏れてしまったものを誤訳というふうにとらえるという点は、今も今後やり方が変わっても変わらないと理解していいんでしょうか。

○河津ディレクター 特段、今回仕組みを変えることで、そういうチェック体制を変えるということとは考えておりません。

○渡邊副主査 そのチェック体制なんですけれども、今やっているものと今後システムを変えてやっていく場合のチェック体制が、もし本当に同じチェック体制をとるとしたら、新しく仕組みを変えることのベネフィットはどこにあるんだろうという気もしなくもないんです。

例えば今まで10件あったら10件全部見なければいけなかったのが、今度の仕組み替えによって

5件で済みますとか、その辺りの目算という変な言い方ですけども、それはどのくらいのところにおありなんですか。

○河津ディレクター 先ほども申しあげましたけれども、今、翻訳だけを公募とか入札でやっているわけですが、過去の経験で申しあげますと、時間が経つてくるとだんだん雑になってくるという部分がございます。

そういう意味では、先ほどの価格のところでも申しあげましたけれども、あらかじめペナルティーを科しますよということがむしろ抑止力として、きちんとした体制をとっていただけるのではないかとこのように思っております。これまでの業者も最初のうちは定訳を間違えたりすることも最初のうちは多くはないし、こういうふうにそろえましようと言えはそろっていたものが、時期が経つにつれて雑になってくる。

先ほども申しあげましたが、翻訳業者が多分変わっているんだと思うんです。そこら辺の事前の御連絡を必ずしもいただく形になっておりませんし、その報告を月々にいただくような形にもなっておりませんので、事後でいいんですけども、そこら辺の報告をきちんとする。それから、ペナルティーを科しますということをあらかじめはっきりさせておくことによって、今までの経験で言いますと、契約当初の言わば緊張感のある状態が維持できるのではないかと思っております。

それで行けば、契約当初の状態が最後まできちんと維持されるということであるならば、私どもとしては、手間というのは相当軽減される。結局最後になって、がたがたと崩れるところですので手間がかかる、先生方からのクレームがわっと来るというのが過去の経験なものですから、そういうところは回避できるのではないかと期待をしております。

○渡邊副主査 翻訳は確かに組織に頼むというのはそのとおりだと思うんですけども、やはり実際に翻訳する人の質、例えば専門分野の用語の問題とか、さっき御指摘のあったとおり、やはりすごく個人的な資質あるいは経験というものも大きいと思います。そういう関係で多分、一定の予定をしていた人たちが継続してやるのかどうかという点で重要だという御認識だと思うんです。

他方、最初に選ぶときに、どういうふうな基準で選ぶのか。例えば具体的にこのレベルの人たちを何人そろえて、どんなに優秀な人が1人いても回らなくなるはずですので、そうすると、このくらい質の方がこのくらい的人数で確保できるというのが多分重要なファクターだと思うんですけども、最初にサンプルを出してもらおうというのは、最初に1人すごく優秀な人がいて、完璧なものを出せば、そこで通ってしまうので、今、言われた、最後まで質を維持してやるときの全体的な仕組みと、今の入札で業者を決めるときの基準が乖離しているのかなという感じを受けたものですから、今の質問を差し上げたんですが、その辺りはいかがなんでしょうか。

○河津ディレクター 御指摘のとおり、大変難しいところでございます。そういう意味では、最初は入り口のところで翻訳をしていただいて、その後に業者が決まって、そこでお願いをする。毎週翻訳をしていただくものが言わばサンプルに当たるもので、毎週試験をしているといいたいまいしょうか。そういうものであってほしいと私どもは思っております。

ただ、やはり翻訳の世界は実際にそうでございますけれども、平たく言うと、翻訳だけで飯を食べている人ばかりではありません。特にこういう経済学の素養もあってという、これは半分は私

どもの想像が入っておりますが、恐らくは日本語もわかり中国の大学院生のような方々を組織して、それを日本からリモートなのか、あるいは中国本拠で日本にサテライトのような形で、ホームページにアップするところはこちらでやらなければいけませんので、そういう技術を持った人と組むというような形が一番あり得るのではないかと考えております。

したがって、大学院生などですと忙しい時期と暇な時期、1年目と2年目で状況が変わりますので、人が入れ替わるということは、ある意味避けられないことだと思っておりますし、むしろそういう方々を組織していただくと、経費的には私どもにとっても非常にメリットが出てくるのではないかと考えております。先ほど申し上げましたように、そういう人が入れ替わるということは、ある程度あるものだと思いますが、しかし、質は確保してほしい。

したがって、私どもの方で、翻訳者はどういう方ですかというところを見るとときには、今、申し上げましたように、経済学のバックグラウンドをきちんと持っておられる方なのかをとりあえずは履歴で拝見するしかないんですけれども、そこが一つの大きなポイントでございます。

勿論、日本語ができるということでございまして、その翻訳者の履歴を見るという意味では、そこは私どものポイントになろうかと思えます。ただ、そう言うものの、人が入れ替わって、御指摘のとおり、最初の1つをやった人はすごくばりばりの人で、あとは実は経歴は立派かもしれないけれども、日本語の能力は大したことがないんですというような人ばかりを集めて、安く済ませる。

そこは私どもとしては、人が入れ替わるたびごとにテストをさせて審査をするという、これはまたすごい事務がかかりますので、そこは先ども申し上げましたが、ややちぐはぐかもしれませんが、経費的にペナルティーを科しますよということで、その組織的と言うと変ですが、その集団をマネージする方に意識を持っていただいて、人が入れ替わるのは当然としても、私どもにお約束をいただいた質が確保できるような方に入れ替えていただくということにお任せをせざるを得ないと思っております。

そうでありませんと、翻訳者の一人ひとりを審査しなければいけない。そうすると多分、人は入れ替わりますので、変えるなど言う方が無理だと思いますので、そういう形で折り合いを付けるしかないんだろうと、思っているところでございます。

○樫谷主査 今の渡邊先生のお話の中で、例えばミスかどうか、誤訳かどうかはホームページに載せた段階で判断するわけですね。事前の相談とかはできるんですか。例えばこれは疑問に感じてわからないというときに、その研究所の方かどなたかに、これはどうしたらいいのでしょうかというごとの御相談はできるんですか。

○河津ディレクター 勿論そういうお問い合わせが業者の方からあれば、過去はこういうふうに翻訳をしていますとかいうお話は当然させていただくことにしたいと思っております。ただ、事前に全部の原稿をチェックするという形にはしないということでございます。

○樫谷主査 あとは研究所の中で大体定訳があるものについては、一覧表みたいなものがあるんですか。これは中国語ではこういうふうに訳すんだというものがあるわけではないんですね。

我々だと専門用語がありまして、微妙なところがあって、それはこういうふうに意味が若干違うんだけれども、同じ英語のものがそのまま日本語でない場合があるんですね。だから、そういうふ

うに言うんだというのがあるんですが、そういうのはあるんでしょうか。

○谷本マネージャー そういったリストを現場の方では持っていて、メールなどで今も公募の業者さんに、うちではこういうルールでやっていますというやり取りをしております。

○樫谷主査 事前に今でもある程度やり取りはできるということですね。そうしないと、出したらもう最後で誤訳だと言われてしまうと、多分そういう微妙なところがあると思うんです。

それから、2ページの全体で150くらいのコンテンツがあって、それぞれ日本語ベースの文字数が書いてあるんですが、これは毎月毎月コンスタントに量として出てくると考えてよろしいんでしょうか。

○河津ディレクター はい。

○樫谷主査 と言いますのは、やはり人を集める場合、集中してやる場合はコンスタントにやる場合と違いますし、特に3ページにありますように、サービスの質で何日以内と書いてあっても、量でまとめて来たときに、幾ら小さいものでもたくさんになれば8日間できないかもわかりませんので、その辺のバランスがどうなのかということです。それも、できればどこかに書いておいていただいた方がいいのかなという気はいたします。つまりコンスタントなんだと。それは平均的にやればいいわけですね。

○河津ディレクター 大体1週間にここに載っていますリストの翻訳が今3~4件でございます。経験値でございますけれども、大体コンスタントに来ております。このリストの中で、一番上の研究テーマが年に1回ございまして、これが大体3月末、4月くらいに大きいのがありますが、ほかは過去の経験から言うと、大体コンスタントでございます。

○樫谷主査 もう一つは、これは日本語サイトに掲載された日から30日以内と書いてあるんですが、普通は日本語サイトに掲載する前に、日本語の段階でいろいろと整理をしたり、ドラフトをつくったりするわけですが、事前にある程度渡すというわけにはいかないわけですか。それを見てからしか判断ができないんですか。

○河津ディレクター そこは実は両方の考え方があろうかと思いましたが、私どもは今回は日本語に載ってからということに整理をいたしました。それが一番はっきりした日付けであるということが1つございます。

もう一つは、事前に渡すとした場合に、事前に渡した後でやはり差し替わるとか、そういう手間を考えますと、業者の方でも負担になる。うっかり間違えて前のものを翻訳してしまうこともあるかもしれません。私どもは事前にチェックをしませんので、そうしますと、もう載ったものということではっきりするという方がよかろうと思ったので1つございます。

もう一つ、これもセキュリティーの関係でございます。載ったものは公開情報でございますので、先ほど申し上げましたように、日本語のホームページを中国で見て翻訳をすることが可能になります。そうではありませんで、事前の段階のものをお渡しすると、これを中国に送っているのか悪いのかとか、そういうものも私どもとしては心配をしなくてはいけなくなってしまうということで、ここはもうすばっと割り切ってしまうことにいたしました。

○樫谷主査 同じく2ページなんですけど、種別でBと書いてあるものは、イベントは今までの実績

として、翻訳をお願いしたのが 15 コンテンツあるという意味ですね。

○谷本マネージャー そうです。実績ベースです。

○樫谷主査 実際はもっとたくさんあるんだけど、15 くらいだということですね。

○河津ディレクター そうです。

○樫谷主査 わかりました。あとは誤訳が 2 か所とか、誤字・脱字が 5 か所。これは月ですね。月以降、誤訳が 2 か所あるいは誤字・脱字が 5 か所というのは、月の量のイメージがわからないんですが、その程度はあり得る話なんですか。これはかなり厳しいのか甘いのか。その辺は感覚な話になってくると思うんですが、どのようにお考えでしょうか。150 本あるということは、平均で月に大体 10 本ずつくらいあるということですね。

○河津ディレクター わかりやすく言いますと、例えばエコノミーという言葉を経済と訳さないで別の言葉にしたというのが 10 か所あっても、それは 1 つと数えてということでございます。

そういう意味では先ほどのどちらに訳そうかということを一きなりミスだと言うわけではございませんので、注意をしておいていただければ、そんなに厳しくはないのかなとも思っておりますが、どうなんでしょうか。

○谷本マネージャー 決めたときに普段チェックをしているスタッフと相談をしたんですが、これは月というよりは 4,000 字くらいの一定のペーパーの中で、1 つ同じ単語を間違えたら、それはどんなにたくさん出てきても 1 つとカウントするんですが、大体明らかな完全な誤訳が 2 つ以上あると、駄目だと判断しているんです。そういったイメージでつくらせていただきました。

○河津ディレクター ですから、先ほども申し上げましたけれども、いわゆる定訳を間違うとか、私どもがリストもお渡ししているのに間違うというのが 2 つあることはないでしょうということでございます。

○樫谷主査 特に入札するときに、多分こういう業者専門家の方がやられるんでしょうけれども、2 か所というのは厳しいんだとか、誤字・脱字が月に 5 か所あったらと言われると、入札するののためらうといけないので、その感覚ですね。事業者としての感覚がわからないのでお聞きしたんです。

○河津ディレクター 先ほども申し上げましたように、これはそのままホームページに載せてしまうということでございますので、そういう意味では、私どもではこのくらい注意深く見ていただきたいなど。そういう意味でもチェック体制。翻訳者が翻訳をするだけでなく、読み返す、見直すという体制はとっていただきたいと思っております。

○樫谷主査 その意味では、質を保つにはコストもかかるわけで、最後の 17 ページに中国語翻訳費というのがあって、1,000 万、590 万、470 万。これはいわゆる公募にしたので下がったということなんですが、この価格というのは 470 万を 150 コンテンツあるということで計算すると、1 コンテンツ 3 万円なんですね。大体このくらいの金額は、勿論量も多かたり少なかったりするんですが、我々も外国の文献について、協会で粗訳をしてもらおうんです。粗訳というのは厳密ではないんだけど、ないよりはましだという部分でしてもらおうんですが、そういう常識的な相場から見て、この価格というのは少し無理してとっている価格なのか、この辺はどう考えらよしいんです

か。それはまだそこまで調べたことはないですか。

○河津ディレクター 19年度で言いますと、実は年度の途中で業者が変わっておりまして、そういう意味で言うと、19年度の途中から20年度にかけての業者は、後で聞くと結構頑張ったという話があって、相当安かったのかもしれない。

○樫谷主査 後で手を抜いたというのも、ひょっとしたら採算がどうしてもありますからね。その辺のところがあったのかなという気がしないでもないんです。

○渡邊副主査 今のお話に関連しますが、私も翻訳とかの関係で思うのは、やはりすごくできる翻訳家の方は高い。本当にミスがなくそうとすると、その人が思い込んで間違っているのを是正しようと思うと、別の人がチェックしないと本当に是正はできないと思うんです。

そういう意味からすると、確かに願わくばというか、理想から言うと、間違いがなくというところだと思わなくても、ここで物すごく厳しいことを言ってしまうと、受注するところが本当に出てくるのか。特にその価格帯で受注するところが出てくるのかというところが気になっています。

そういう意味では、余りここで誤訳の内容を一件極めて明白にとか入れてしまうと、かえってスタンダードが落ちてしまうといけないんですけれども、その辺りの工夫をお考えいただけないのかなと思います。

例えば今のは月ではなくて、そのコンテンツごととか、もう少し自分が受ける費用と、例えばもう一人投入させるのかどうか。コンテンツによって研究テーマなのか、軽いエッセイなのかとか、その辺りの利用者が受けやすさというところを現実を踏まえて工夫していただくことはできないのかなと、お話を伺っていて思ったんです。

○河津ディレクター わかりました。少し考えてみたいと思います。

○樫谷主査 実績が出ますのでね。この量でこの価格だと無理かなと思われると。

○河津ディレクター 他方で、昨年、一昨年と業者の選定をやりまして、私もその審査に立ち会っておりますけれども、翻訳者が書いたものをそのまま出してくるところはありませんで、翻訳者が書いたものをダブルチェックを必ずするようになります。

会社によっては文章がちゃんと通るのかという面とテクニカルに正しいのかというトリプルチェックまで行くと、ちょっと高くなるんですが、少なくとも翻訳者がやったものを、ついうっかりもありますので、そのチェックはこの業界はやはりきちんとやるものなんだろうなというのが、実は審査に立ち会った経験でございます。

少なくとも明らかなミスというんでしょうか。中国語で読んでもこれは変だよというようなことは、普通にお願ひしてもないんだろうなとは思っております。

○谷本マネージャー 私どもはいつも公募でやるときに、難易度の高い論文などの概要を訳すものと、コラムのようなものと別個に公募をしているので、そこでも住み分けをしていますし、ちゃんとした翻訳業者の場合は必ずダブルチェックをするという体制のワークフロー図を出していただいています。

今回ちょっと厳しく思われるようなことを書いてしまったというのは、今年度の業者がこちらが

先ほどお伝えしたリストを送ったにもかかわらず、明らかにそのチェックを内部でしないで、また返してくることが何度か続き、3か月以上続いたので、3回以上同じミスを繰り返すような方だと、やはりペナルティーを科さざるを得ないのではないかという反省点でありました。

○樫谷主査 わかりました。特に我々の業界で言うと、訳してもらっても、訳してもらっただけでは何を言っているかよくわからないときがあるんですね。原文を見たらわかるんだけど、日本文を見てもよくわからないというのがあると思うので、そういうようなものはどうするんですか。例えば中国人の方が読んでわからないといけないわけですね。訳はある意味、正確なのかもわからないけれども、正確過ぎてかえってわからないというの中にはありますね。

○河津ディレクター 私は中国語はわからないものですから、何ともお答えしがたいんですけども、多分その分野のバックグラウンドをきちんと持っているかどうかということによるのではないかと思います。

先ほど申し上げましたけれども、中国の経済学の大学院生で日本語もわかるから、それこそ私どものホームページの日本語の論文の概要とかも日ごろから読んでくれているような方を、私どもは実は期待をしております、そういうような方に翻訳をしていただく。

実は先ほど申し上げましたけれども、私どもがこれまで業者を選定するときも、バックグラウンドとして、経済学とかの素養を持っているかというところを見ておりますので、そこがしっかりしていれば、大丈夫ではないかと思います。

逆に言うと、日本でそういう方はそうそういないだろうから、先ほど申し上げましたように、中国の方になるのではないだろうか。それも十分あり得るだろうという前提で、セキュリティのような負担をかけるのは、逆にやめておこうと判断をしているところでございます。

○樫谷主査 この6～7ページにかけて加点審査項目がありますが、中国語翻訳の質の確保というのがありますね。0～20点まであるんですが、十分な人数の質の高い翻訳者ということなんですが、これは例えば入札をする人が見たときに、十分な人数の質の高い翻訳者。これは量との絡みだと思わんですが、どういうふうに理解したらいいのか。その質の高い翻訳者というのはどういうふうにかえたらいいのか。それこそ、きりがいいわけですが。イメージは大体わかるんですが、その辺のところはわかるような、つまり0～20点までの間で、もう少しブレークダウンしたようなものができるといいかなという感じはいたしました。

同じく7ページのウの実績のところ、3年間で中国語翻訳業務を実施した経験があるか。また、その実績は本業務に効果的なものか。効果的なというのはどういうことを想定すればいいのか。これはおっしゃったように中国語翻訳といっても技術的なところもあるし、法律的にもあるし、いろいろとあると思うんですが、恐らく経済産業の絡みだと思わんですが、入札する方にとっては、この辺ももう少し具体的に書いていただいた方がわかりやすいかなという気はいたしました。

○河津ディレクター ありがとうございます。御指摘のとおりだと思いますので、今、申し上げたような経済学の素養とか、そういうようなことで、少しわかりやすく工夫します。

○渡邊副主査 今の点に関連して、細かいことばかりかもしれないんですけども、例えばまさに十分とかいうのは、さっき樫谷主査から御指摘のあったように、これは毎月定期的に出てきます

とか、それで人数は相当変わってくると思うんです。

あとは日本語を外国語にするときは、例えば必ずネイティブチェックを義務づけるとか、今までほかの翻訳業者がどのくらいのチェック体制でやっていて、これから受注しようとする人に開示できるような情報があれば、多分その辺りの具体性を持たせて開示していただければ、翻訳業者の方も本当いろんなタイプの翻訳業者があると思います。

ただ、ネイティブチェックはすごく重要だと思います。どんな翻訳家であれ、まず日本語の内容が理解できないと難しいと思うので、日本語の能力と中国語の能力と同じくらいを期待するというのは、本当になかなか難しいところがあると思うので、今までのお気づきになられた前例とかを参考に、具体的なそういうものをお示しいただくと随分違って来るかなという気はします。

○樫谷主査 特に入札説明会などで、今までの課題というんでしょうか。そういうものも併せて御説明いただくと、入札する人によってみたら、よりイメージがしやすくなるのかなという気はいたします。

○河津ディレクター ありがとうございます。

○樫谷主査 どうぞ。

○佐久間事務局長 気になったところが、今までアップの作業は中でおやりになっていたのを今度は外へお出しになるということなので、それに関連して伺いたいんですけども、今までアップ作業を外の方に、システムをさわらせることをおやりになっていたのか。やっていたとしたら、どういう義務というか、セキュリティー上のもものはいろいろあるかとは思いますが、遵守しなければいけないことを定めておられるのかとか、そういったセキュリティー周りのことについて、今、見ていて特に何も触れられていないと思ったんですが、この辺りはいかがでしょうか。

○河津ディレクター 今までは派遣職員の方にはお願いをしてございました。この方を正規採用いたしましたものですから、その方が引き続いてやっておりますが、実は異動もさせましたので、今は併任業務として、引き続きこの作業をしております。したがって、うちの規定類を守っていただくことになりました。

今度の場合ということになりますが、そうなりますと今度は外部委託の方がやるということになりまして、実は私どもは今年度の頭から、いわゆるセキュリティーポリシーということで、作業手順を内部ルールとして定めておりますので、それを遵守していただくということになるかと思えます。

物理的に中に来てやっていただきますので、そう変なことが起こるわけではない。外からですと、そのアドレスに対して外から、あるいはそのアドレスを人に渡すと、そこから入られるということがありますから、物理的にうちの中の機会からしかアクセスできませんので、そういう意味では正直申し上げて、余り心配はしていないということでございます。

○佐久間事務局長 一応システムに触らせるようなときには、内規をちゃんと守れとか、触らせる人はちゃんと登録しておけとか、パスワードはちゃんと管理するということなどを含めて、多分規定されていると思うんですけども、そういったようなことを守るんですよというのは、一言断っておくのが普通ではないかと思えます。

○河津ディレクター その点は少し補わせていただきたいと思います。

○樫谷主査 3ページ一番上に、公開済コンテンツの確認・修正業務というのがあるんですが、リンク切れとかアクセシビリティが保たれているという。あるいはまたコンテンツの内容について、誤字・脱字、誤訳等があった場合は修正を行うと書いてあるんですが、この確認を行うのはどのようなタイミングですか。毎日やらなければいけないということになるんですか。それとも、ある一定のタイミングのときに、大幅に書いたときとか、そういうことなんですか。私は詳しくないので、とんちんかんな質問をしているかもわかりません。

○河津ディレクター 私も決して専門ではないんですが、通常新しいものを載せていくだけであれば前のものが切れたりすることはないので、先に申し上げましたけれども、サーバーの用量とか、そういうのもあろうかもしれませんが、少し組み換えたりするときに、アドレスというか、それを変えたときにどこにリンクされているかというを見落とし、飛び先がなくなってしまうというようなことがないようにということでございます。

そういう意味では、まさに暇なときにちょこちょこ見ていただくのが一番いいんですが、こういうのが起こりそうなときには、ちゃんと気を付けてくださいということです。

○谷本マネージャー 特に機会を設けていなくて、多分数か月に1回くらいの感じで、うちのスタッフは今チェックをしていると思うんですが、うちの中のもので余りリンク切れになることはないんですけども、例えば先生たちのペーパーの中に、内閣府何とかレポートはこことかエビデンスが書いてあるときに、そのエビデンス先が結構リンク切れになることが多くて、それは半年に1回くらいはよく見るようにはして、リンク切れをしていたら修正しているので、そういう作業が年に何回かやっていたりすることになると思います。

○河津ディレクター 余談になりますが、役所のホームページは結構アドレスをちょこちょこ変えるんです。そうすると、見にいこうと思うと、なくなっているというのがよくあって正直苦労します。私どもの方は、そういう意味では担当が逆の経験を活かして、動かしてもできるだけ名前は変えないようにしたり、あるいは元のアドレスに飛んできたら、移した先に飛ぶように工夫しています。

○樫谷主査 むしろ中のことではなくて、外との関係だということですね。

○河津ディレクター 役所のホームページは、余りそこら辺までは配慮されないケースが多いです。

○樫谷主査 それから、誤字・脱字、誤訳があったら修正を行うことと書いてあるんですが、4ページのところで、要するにチェックをして見つかったら協議をして直せと。誤訳、誤字・脱字がアとイのミスのお話ですね。これはコンテンツで自分で見つけたということになりますね。この辺は指摘されたからなのか、それとも自ら見つけた場合でも、このア、イに該当するのか。この辺はどう考えたらいいんでしょうか。

○河津ディレクター 御自身で見つけていただいたということであるならば、それで罪を問うというのはよろしくないと思います。そこら辺は補っておきたいと思います。

○樫谷主査 よく見ていただくということは大事でしょうからね。そのために見つかったらいけないからということで直さない、かえって困りますね。

よろしいですか。何か事務局からございますか。

○事務局 特にございません。

○樫谷主査 それでは、ありがとうございました。本実施要項（案）につきましては、次回の審議で議了する方向で調整を進めたいと思いますので、是非本日の審議や今後実施していただく予定の実施要項（案）に対する意見募集の結果を踏まえて、引き続き検討をしていただくようお願いしたいと思います。

また、委員の先生方におかれましては、本日質問できなかった事項や確認したい事項がありましたら、事務局までお寄せいただきたいと思います。事務局で整理をしていただいた上で、各委員にその結果を送付していただきたいと思います。

それでは、本日の「入札監理小委員会」はこれで終了いたします。なお、次回の開催しにつきましては、事務局から追って連絡いたします。

本日はどうもありがとうございました。

（独立行政法人経済産業研究所関係者退室）

（傍聴者退室）